

歯の保存にこだわる臨床 ～インプラントを考える前に～

現在ではインプラントによる補綴は Br、PD、FD と共に普通に行われる欠損修復の手段として多くの先生方が手掛けていますが、歯科医療の最大の目標は「天然歯の保存」であります。症例を適切に選び、確かな技術があれば安定した予後が望めるインプラントではありますが、多くの患者の望みは置換医療であるインプラントを埋入することではなく自分の歯を保存することではないでしょうか。

歯を失う原因は歯周病、う蝕、歯根破折など多々ありますが、術者の努力次第で保存可能な歯牙が抜歯の診断を受けている症例も少なくなさそうです。

今回供覧いただく症例は処置に特殊な材料やテクニックが必要なものはなく、読影に耐え得るレントゲン写真と正確な基本的処置が行えれば誰でも行えるものばかりです。己のできうる限りの努力をすることにより、歯の保存の限界を見いだす事ができ、より患者に寄り添った臨床が行えるのではないかと思います。

所謂一般開業医が取り組んでいる様々な歯の保存に対する取り組みをご覧いただきながら歯を守ることとその意義について先生方と考えさせていただければ幸いです。また、時間がございましたら歯の保存のみではなく、咬合の保存と咬合再構成に必要な処置と考え方についてもディスカッションできればと思います